

第12回 東北地方整備局との意見交換会 議事要旨

I. 要望事項と回答

【要望事項1】東北建設躯体工業会

○ダンピング受注の是正について

- ・公共工事発注の減少により、ゼネコン同士の過激な受注競争が起こり、ダンピング受注が発生している。
- ・そのしわ寄せが専門工事業者に低価格で発注され、経営悪化の原因となっている。
- ・そのため、下請業者の労働条件の悪化、安全対策の不徹底、品質確保の支障などが発生するなど、公正な取引秩序を歪め、建設業の健全な発展を阻害するものです。是非ともダンピング受注の是正について、ご指導をお願いしたい。

【回答】

【建政部】

- 直轄工事につきましては、調査基準価格を切り上げる等を行い、予定価格を事後公表して対応をしております。
- ただ、自治体の取り組みが遅いため、どうしていくかということで、建設流通政策審議官通知等を発出するなどして働きかけを行っているところです。
- 発注者協議会の場でも総合評価を含めて、機会あるごとに働きかけを行い、導入促進を図っております。

【企画部】

- 東北地方整備局では施工体制確認型を導入しており、平成 21 年度は 17 件の低入札がありましたが、平成 22 年度は 2 件に減少し、発生率も 0.2%となりましたので、その結果、かなりの歯止めになっているものと考えております。
- 併せて、調査基準価格についても、平成 23 年 4 月から見直しを行い、直接工事費の 95%、共通仮設費の 90%、現場管理費の 70%、一般管理費の 30 %の合計額であったものを現場管理費について 80%に引き上げ、数%程度は上昇したものと思っております。
- このような取り組みによってダンピングを抑える努力をしているところです。
- 地方自治体に対しましても、いろいろな機会で行きつけについてお願いをしているところです。

【要望事項 2】(社)日本塗装工業会東北ブロック会

○登録基幹技能者の積極的活用について

- ・平成 9 年から民間資格制度として基幹技能者制度が開始され、平成 20 年 4 月より建設業法施工規則改正により、登録基幹技能者に対する加点評価が実施されたことで、27 の業種で約 28,500 人強が登録基幹技能者となっている。
- ・基幹技能者は工事現場において、次のような重要な役割を担っている。
 - ① 施工方法等の提案調整
 - ② 適切な人員の配置、作業方法、手順等の構成
 - ③ 一般の技能者への施工に係る指示、指導
 - ④ 前工程及び後工程の連絡調整 等
- ・施工現場の生産性の向上、建設生産物の品質の確保という観点からも、登録基幹技能者は欠かせない存在と思っているが、発注者としては、登録基幹技能者に対する現況や、今後の活用・評価等についてお聞かせいただきたく要望いたします。

【回答】

【建政部】

- 基幹技能者制度については、28,500 名強ということで、だいぶ人数が増えてきた感じがいたします。
- 全国の地方整備局で試行導入がなされたことで、だんだんと地方公共団体に広がり、そして民間へも広がるという流れになるものと思っております。
- 「建設産業の再生と発展のための方策 2011」にも登録基幹技能者の活用についての記載されており、今後も、周知、普及に努めてまいりたいと思います。

【企画部】

- 基幹技能者は、いわばその道のプロですので、東北地方整備局としても、しっかりとした仕事をし、働くチャンスをつかんでいただきたいことから、平成 22 年度より総合評価方式の評価項目に採用する試行をコンクリート工事で 3 件、土工工事で 5 件、合計 8 件実施いたしました。
- コンクリート工事については 2 件、土工工事では 2 件、合計 4 件で申請がありました。
- 配点の仕方等からかも知れませんが、もう少し出ても良かったのではないかと、という思いであり、PR 不足も要因ではないかとのことから、本年度も継続して加点評価を実施することとしております。
- 登録基幹技能者等への手当についても、今後、実績が積み上がることで評価として出てくるものと思われまます。

以上